



写真提供: 医道の日本社

東京マラソン2010ボランティア活動報告

ランツボ・はりケアステーション

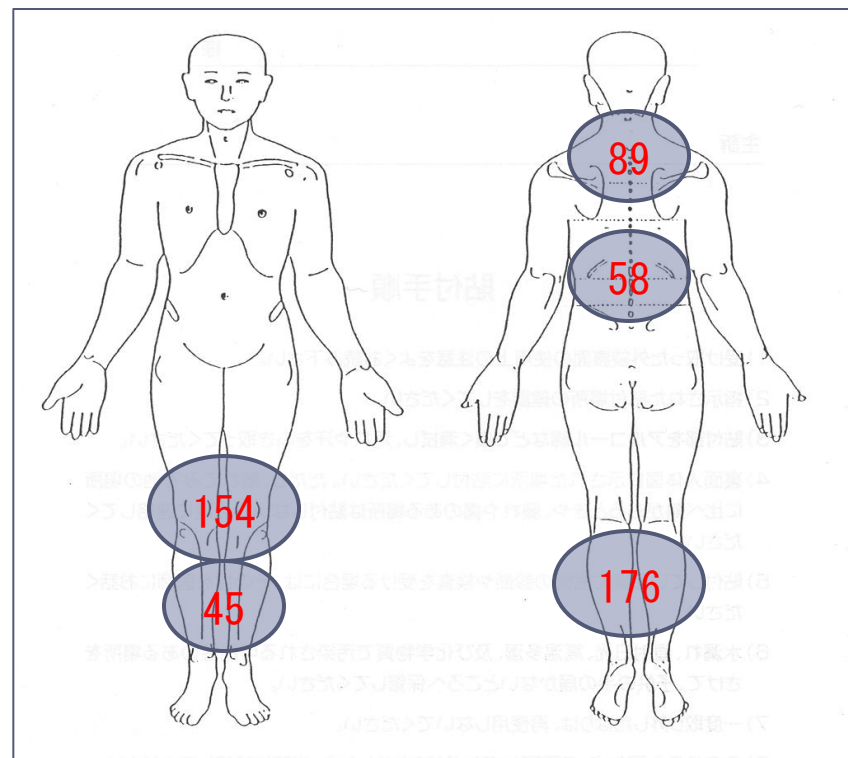
社団法人東京都鍼灸師会

ランツボ・はりケアステーション ボランティア活動サマリー

- ▶ 活動日時 : 平成22年2月28日(日)8時~14時
 - ▶ 天候 : 雨
 - ▶ ボランティア活動種目 : 東京マラソン2010 10kmの部
 - ▶ 申込者 : 10km 39,307人
 - ▶ 出走者 : 10km 2,948人
 - ▶ 完走者 : 10km 2,919人 完走率 99.0%
男子52.2% 女子47.8%
 - ▶ ボランティア名称 : ランツボ・はりケアステーション
 - ▶ 所属組織団体名 : 社団法人東京都鍼灸師会
-



- ▶ ランナー受療者数 : 203人
- ▶ 男女別受療者数 : 男子105人 女子98人
- ▶ 主訴部位別(複数回答)
 - 腰部 58人 (男子35人 女子23人)
 - 膝周囲 154人
(男子85人 女子69人)
 - ふくらはぎ 176人
(男子90人 女子86人)
 - 脛部 45人
(男子13人 女子32人)
 - 頸・肩周辺 89人
(男子25人 女子64人)



症状部位(複数回答)人数

▶ ボランティア人数 : 11人

- 青木正雄、高田常雄、三浦 洋、郷 宗知、佐藤直史、岩元健朗、一ノ瀬宏、井坂卓司、申 英秀、青木マリ、小松秀人

関係者::医療機器・衛生材料プラス・ワン 佐藤 修様 (ボランティアベッド3台を搬入搬出と貸出を提供してもらっています)

パイオネックス提供:セイリン 医道の日本社 編集委員 由井様



イベントブルゾン (051ET) 048蛍光オレンジ 50枚
背面 青1色1箇所
M-10枚
L-30枚
XL-10枚

サマリー：考察 1

- ▶ 今回、東京マラソン2010は初めてのボランティア活動であった
- ▶ 東京マラソン2010の10kmマラソンのボランティア支援を行った
- ▶ ボランティアスタッフは11人の構成チームで行った
- ▶ 清潔操作・感染防止・衛生マニュアルに基づいた実践を行った
- ▶ ボランティア活動マニュアルに沿った実践ができた
- ▶ ランナーの受療者数は203人であった
- ▶ 施術の円皮鍼は医療機器認証パイオネックスを使用した
- ▶ 安全性と衛生的な施術操作を実践した
- ▶ 施術担当者は手指グローブを着用した
- ▶ 問診・施術カルテの記載を義務化とした
- ▶ ボランティア活動に関するクレームと事故の発生はなかった

サマリー：考察 2

- ▶ ブーステントは1張りであった
- ▶ ブーステント1張りによる活動リスクは以下の通りであった
 - 1) 雨、風、寒さによる天候のため、待合室が大混雑であった
 - 2) 施術と待合室の活動スペースの確保が厳しかった
 - 3) 暖房設備の安全スペース確保が厳しかった
 - 4) 物的スペースと人的活動スペースに限界があった



危険!!狭い待合室と暖房設備



雨の天候!! 外に行列



安全な活動スペースが必要

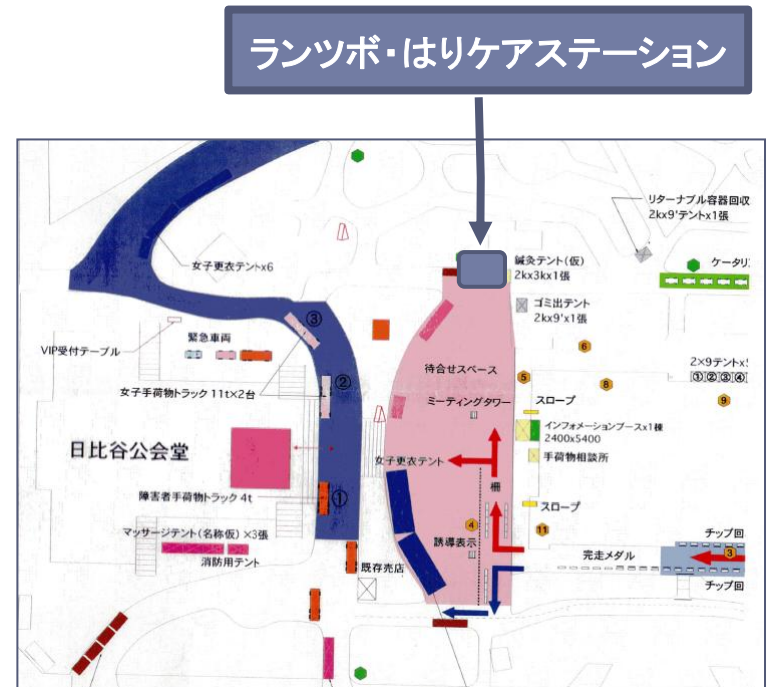
サマリー

要望：東京マラソン2011に向けて

- ▶ ランナーに対し安全で質の高いボランティア活動を提供するために以下の内容について要望いたします

1) ボランティアブーステント4張り

下図の2010での会場スペース活動からテント4張り増設は可能と考えられます



東京マラソン2010 大会概要

- ▶ 開催日：平成22年2月28日（日）
- ▶ 9:05 車いすスタート
- ▶ 9:10 マラソン・10kmスタート
- ▶ 10:50 10km競技終了
- ▶ 16:10 マラソン競技終了

マラソン：東京都庁～飯田橋～皇居前～日比谷～品川～銀座～日本橋～浅草雷門～築地～豊洲～東京ビッグサイト（日本陸上競技連盟／AIMS 公認コース）

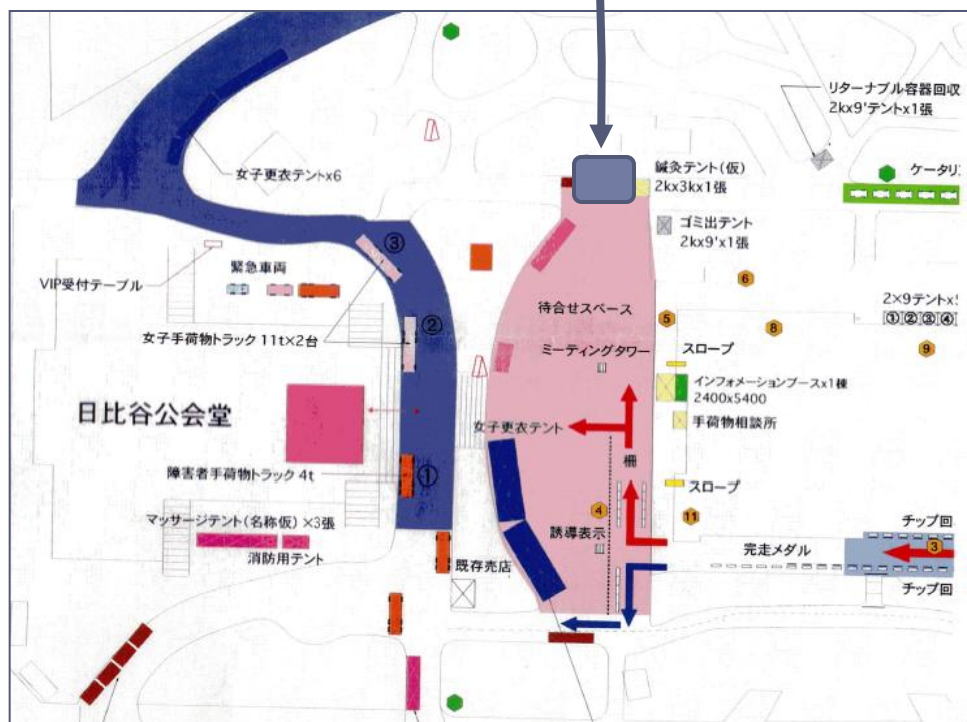


**10km：東京都庁～飯田橋
～皇居前～日比谷公園**

東京マラソン2010 10kmボランティア活動

10kmゴール 日比谷公園

ランツボ・はりケアステーション



ボランティアスタッフ安全基準

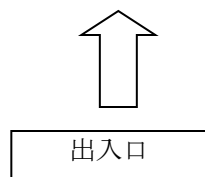
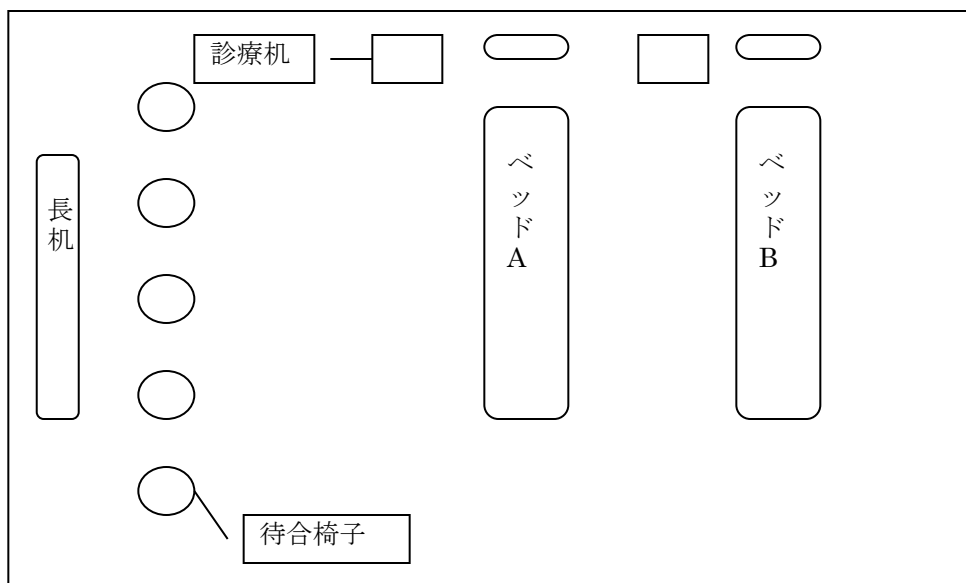
- 1) ボランティア内容は、本研究会委員会で決定した内容に準じ同意した者
- 2) ボランティアスタッフは、認定履修研修の規定単位を取得し、委員会で認めた者
- 3) ボランティア施術スタッフは、はり師・きゅう師の資格を有する者
- 4) 感染防止と鍼灸医療安全ガイドラインの基準を理解し同意した者
- 5) 感染性医療廃棄物処理の理解と同意をした者
- 6) ボランティアチーム運営規則に準じ同意した者
- 7) 各種スポーツ振興事務局と実行委員会との協調を図れる方で同意した者
- 8) 救護医療連携の知識とマニュアルを理解し連携に同意した者

チーム構成 ボランティアスタッフ

- ▶ ブース構成人数 : 3人1組制×2組 (1ベッド)
- ▶ ブースチーム構成 : 1ベッド)×2組
- ▶ テント内ベッド数 : 2台(A・B) 注)3台まで可、当日の判断とする。
- ▶ ブースチーム名 : A-1、A-2、B-1、B-2
- ▶ チームスタッフ構成と役割
- ▶ 各ブースリーダー : リーダー 1名 (ブースA・B)
- ▶ 各ブースサブリーダー : サブリーダー 1名(上記同様)
- ▶ 3人1組構成 : 施術担当1名、アシスタント1名(学生可)

ボランティアブーステント構図

▶ ボランティアブース内の構図



ボランティア活動マニュアル①

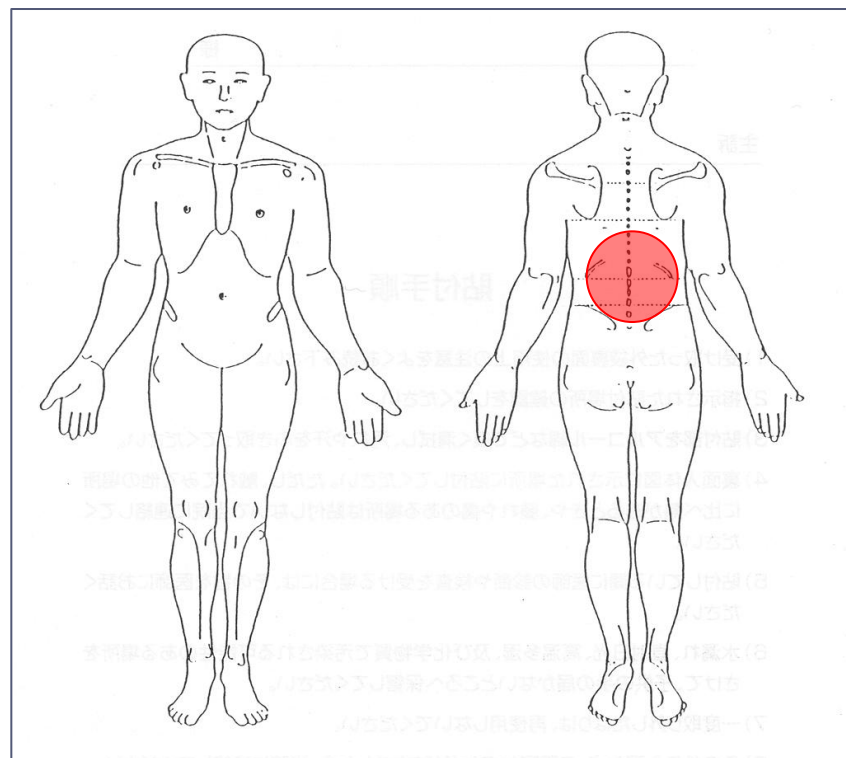
【1】施術カルテの記入

- ▶ ゼッケン記入
- ▶ 年齢
- ▶ 住所不要
- ▶ 走行歴
- ▶ タイム（自己申告）
- ▶ 鍼灸経験の有無



【2】問診・症状の確認

疼痛部位を模式図へ記載



ボランティア活動マニュアル②

【3】ベッドへ誘導

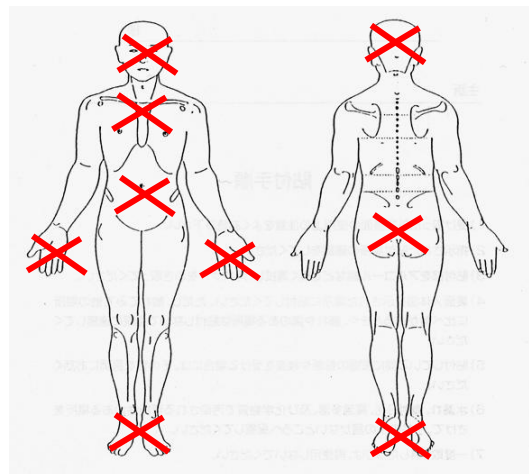
- ▶ チーム別にベッドヘランナーを誘導
- ▶ カルテ基礎情報の確認
- ▶ 痛みの部位を確認



【4】施術部位の注意点(1)

以下の部位は施術は行わない

- ▶ 1. 臀部から坐骨周囲
- ▶ 2. 胸部
- ▶ 3. 顔面、頭部
- ▶ 4. 腹部
- ▶ 5. 足部
- ▶ 6. 手掌



ボランティア活動マニュアル③

【5】施術部位の注意点 (2)

- ▶ 以下の条件の時にはランナーのための着替え用ポンチョを着用し(図1)、バスタオルで保護し身体の露出に注意すること。



- 1) ハードタイプのランパンを着用して、施術部位の着脱が困難の場合(図2)



- 2) ポンチョは4枚用意していますので、それぞれ必要に応じて着用してもらうこと。

ボランティア活動マニュアル④

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 1

【6】手指の消毒

- ▶ 施術者は必ず指定の消毒液で手指の消毒を実践すること。消毒液は、問診机、ワゴンに設置しておく。



【7】施術時のグローブ着用

- ▶ 施術者は、消毒の次に施術用グローブを装着する義務とする。着用の交換は、基本的に1チーム1交代で行う。その他、感染ならびに衛生的状況に応じ適切に対応するように心がける。



ボランティア活動マニュアル④

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 2

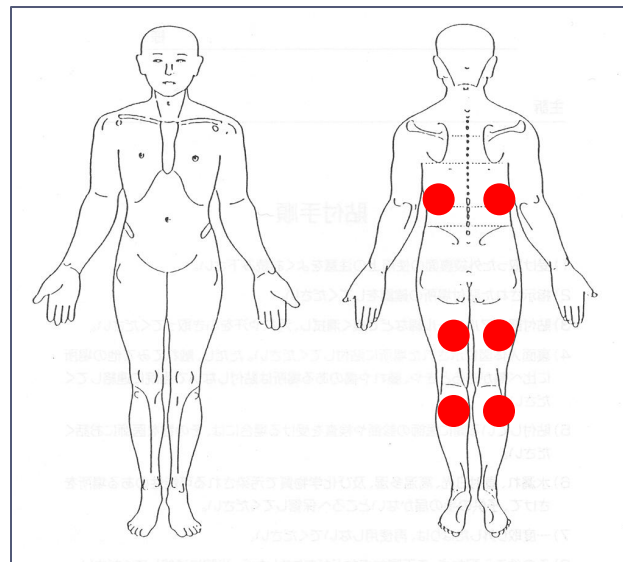
【8】施術野の消毒方法

- ▶ エスクリンを使用し、施術野の消毒を行う。他に消毒用ウェットティッシュも設置していますので、患部が広範囲汚れていたり、汗が残っていた場合には、先に消毒用ウェットティッシュを用いて汚れを取り除く。



【9】取穴部位は最大6カ所以内

- ▶ 疼痛部位あるいは違和感などに対する施術を行う取穴は原則的に最大6箇所以内とする。



ボランティア活動マニュアル⑤

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 3

【10】施術に使用する鍼

パイオネックス

- 1) バイオネックス (円皮針) を使用する
- 2) バイオネックスは0.3mmを用いる
- 3) バイオネックスは原則6個以内
- 4) バイオネックス医療機器認証番号

▶ 15500BZZ0806000



安全性・衛生的に優れた究極の円皮鍼

健康管理の新しいカタチ

[安全設計] 個別包装から抜封まで個別検封された密着容器です。蓋はプラスチックに成型加工しているため、蓋が取れる心配はほとんどありません。

[衛生的] 指がケースの粘着面に付着することがないように、独自の工夫を凝らしましたので消毒前のご使用できます。

[皮膚の負担を考慮] チューブは感染性の低いマイカでチューブを使用。みれどがふたつきたりすることが少なく、しかも割れにくい。チューブを使用しているため皮膚にびっさり着くことはありません。抜いた後、鍼は袋型から引いたりすることがなく、チクチク感がありません。

[品質管理] 抜封一貫作業のもと、ISO13485:2003を認証取得し、徹底した品質管理体制を構築しております。

カラーコード	イエロー	グリーン	ブルー	ピンク
総長 mm	0.0	0.8	1.2	1.5
針長 mm	0.20	0.20	0.20	0.20

安心・安全設計

構造図: チューブ、針、蓋、カートリッジ

※必ずご使用の際は、蓋の取り方をよくご確認し、蓋の取り方は必ずしも正しいものではありません。

ボランティア活動マニュアル⑥

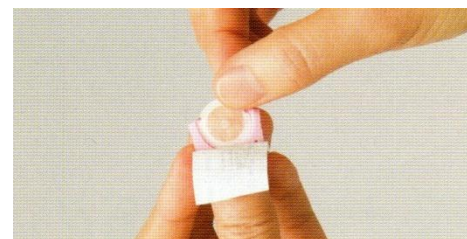
施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 4

【11】施術鍼のパイオネックス安全・清潔手技操作 1

1) 無菌維持された個別包装のケース1つを取りはずす



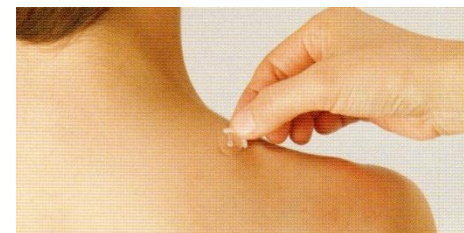
3) ケースを山折りにして指ではさみ、テープとともにシース(扇型シート)をつまみあげる



2) シール紙をはがす



4) 貼付する部位にシースを付けたまま鍼を刺入する。シース部分をテープからはがし、軽く上から抑える



ボランティア活動マニュアル⑦

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 4-2

【11】施術鍼のパイオネックス安全・清潔手技操作 2

5) 鍼先は、皮膚にやさしい形状を使用している。痛みはほとんどなく、はじめての方でも不安なくスムーズに確実に刺入できる



- ▶ エチレンオキサイドガス滅菌済み鍼使用
- ▶ テープには通気性が高いマイクロボアテープを使用。ムシたりかぶれたりすることは少なく、しかもはがれにくく、快適に使用できる
- ▶ 1枚のテープに鍼を樹脂で固定。肌にぴったり密着する
- ▶ 鍼先、テープの粘着面が指先に触れることなく、簡便に貼ることができる

ボランティア活動マニュアル 8

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 5

【12】施術カルテをランナーへ渡す 【13】外皮消毒剤を持たせて終了

- 1) 施術を終えたら、貼付した部位をランナー用カルテに記録し渡す
- 2) バイオネックスを貼付した箇所を説明する
- 3) 本日の入浴前にはがすことを説明する
- 4) 入浴しなかった場合は就寝前にはがすことを伝えておく

- ▶ エスクリンワン1パックを渡し、バイオネックスをはがした後に患部を消毒しておきことを説明する



ボランティア活動マニュアル9

施術清潔操作・衛生・感染防止テクニック 6

【14】医療廃棄物の処理方法

施術に使用した物は全て子弟の医療廃棄物ボックスへ処理することを原則とする



ボランティア活動マニュアル10

救護医療連携

- ▶ (1) 緊急救護を対応する場合(救護テントへ連絡)
- ▶ 1) 発生現場が鍼灸ボランティアブース内の場合
- ▶ **連絡の流れ**

